

午前10時50分再開

○議長（半田雄三君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、10番中島秀樹議員の質問を許可します。10番中島秀樹議員。

（10番中島秀樹君登壇）

○10番（中島秀樹君） 皆様、おはようございます。質問の許可をいただきました10番中島秀樹でございます。

私、先日、あるセミナーを受けてまいりました。これはオンラインのセミナーだったんですけども、組織をいかに変革するかというセミナーでございました。

その中で、カネボウ、これは100年を超える名門企業なんですが、残念ながら2007年に解散をしてしまった会社です。繊維であったり、化粧品、食品、薬品、日用品、この5つがペンタゴン経営と言って、優秀な人材が集まる会社でございました。この会社が産業再生機構のほうに身を委ねるような形になるんですが、そこで、深く携わった方が講師でした。

この優秀な人材を抱えた100年を超える企業が、なぜ経営破綻に至ったか、その凋落のプロセスを勉強する会でございました。

衰退する組織というのは、似たような特徴があるそうです。私は、それがどういったものか知りたいと思ひましてセミナーを受けたんですが、その中で出ましたものは、朝倉市にもひょっとしたら当てはまるものがあるんじゃないかと思うようなものがございました。

これは一般質問の中で少しずつ具体的にはどういったものかというのは明らかにしていきたいと思っておりますが、その中で出ましたのが、特に私が覚えていますのが、激しい議論を回避する。議論をすると、「お前、大人げないぞ」というようなことを言う、それから、PDCAサイクルの欠如、プランと実行だけはするけれども、チェック機能が甘い、こういったものが特徴として挙げられるそうです。

議場は、議論の場でございます。激しい論戦、それから、議員としてのチェック機能を今日も果たしていきたいというふうに思っております。

続きは質問席から質問をさせていただきます。

（10番中島秀樹君降壇）

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、通告に従い、質問をさせていただきます。

色々順番を考えたんですけども、順番どおり、1番目が教育行政について、2番目が市職員による収賄事件の原因究明と発生防止策について、3番目、コロナ後の成長戦略についての順番で質問をさせていただきます。この3つとも、こなせるかどうかちょっと分からないんですけども、順番にやらせていただきたいと思います。

では、1番目の教育行政についてでございます。

先日、新しい教育長が誕生いたしました。私は、まず、早野教育長様の経歴書を見まし

て、名前、なんて読むんだらうなど、そこから、それくらい早野教育長という方は、多分、お話もしたことがないんじゃないかと思います。しかし、第一印象としては若い教育長さんだと思いました。そして、宮崎教育長は、1つの時代を築かれた偉大な教育長でいらっしやいましたけれども、新しい風、また、人が変わるということで、朝倉市の教育行政というのも大きく変わっていくのではないかと、そんな予感を感じました。

早野教育長は、議場で自分の考えを述べられました。私は非常に珍しいと、新鮮だと思いました。普通は、「よろしくお願ひします」とかいうような短めな挨拶が多いんですけども、教育長は自分の考えを述べられました。

私は、そのときに3つの柱というのを教育長は述べられたと思うんですけど、このことについて聞いてみようかというふうに思いまして、今日の質問に至りました。

まず、最初に御質問をさせていただきます。

早野教育長は、経歴書はもう回収されてしまいましたので私の手元にはないんですが、校長先生を経験された教員を勤め上げられた教育長だと思います。なぜ、教員になられたのか、そのところの教育長の歴史とか、考え方、これをお尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） それでは、失礼します。初めまして、早野展生と申します。どうぞよろしくお願ひします。

今、中島議員様から御質問がありまして、最初に私、36年間、校長を含めましてですけども、36年間、教職につかせていただきました。

最初に、なぜ教員になったのかという御質問でございますけども、それを一番、本当に真剣に考えたのが、すみません、申しわけございません、私の個人的な考えでございますが、高校時代から剣道をやっております、引き続き剣道をやっております、やはり大人になっても剣道を続けたいというのがございまして、また、教員そういった立場でできるというので、子どもたちとそういった交わりをしたいと、子どもが好きでしたので、そういった形で教員を選ばせていただいて、大学を進み、そして、採用試験を受けさせていただいて採用されたという形でございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 剣道を一生懸命なさってて、子どもたちと剣道も続けてやれるからというのが、1つの教員を目指された理由だというふうにおっしゃってありました。

そういった中で、今般、教育長と教育行政のトップになられたわけなんですけども、教育行政のトップになられるにあたりまして、教育は国家百年の計であるというようなことを議場でおっしゃられたと思います。この点については、どのようなお考えで教育は百年の計ということをおっしゃられたのかお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今から100年前で申しますと、教育はその時代どうだったのか

というのを考えますと、1920年ごろでございます。日本で言いますと大正時代でございます。1920年ごろ、実は現在と同じようなパンデミック、いわゆるスペイン風邪というのが全世界で流行をいたしました。そして、日本も襲われまして、日本の当時の人口は現在の人口の半分だったそうです。その中の45万人が亡くなったという歴史があつているようでございます。

100年後はどうなるのかというのは、その時々の世界や日本の情勢、動きで変わると思っています。

私が今考えております今後100年の朝倉の教育は、大きく分けて2本柱で考えているところがございます。

1つは、郷土の歴史や文化、自然を守るふるさと教育でございます。もう一つは、世界で通用する人材の育成、いわゆるグローバル教育、これは個人的な言葉の使い方ですけども、グローバル教育でございます。

1つ目のふるさと教育は、小中学校とも地元の方を招聘して、総合的な学習の時間や社会科の授業、学校行事などの様子を学校通信や学級通信で発信するように本年度から考えているところでございます。

2つ目のグローバル教育については、本年度から御存じのとおり、タブレットを活用した学習活動を展開してまいります。また、外国語教育、これは既に行われておりますけども、英語スピーチコンテスト、中学校を中心に行っておりますけども、外国語教育、またはプログラミング教育の充実をさらに図っていきたいというふうに考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 2本柱ということで、郷土、私は、教育長がグローバルとおっしゃられましたのでローカルという言葉をつかわせていただくんですけども、ローカルな教育、それから、グローバルな教育、この相反する考え方、これをやっていくというふうにおっしゃられたんですが、今言いましたように、グローバルとローカルというのは対極にあると思います。これをうまくバランスを取っていくというのは非常に難しいんじゃないかというふうに思っております。

私、教育長の話聞きまして、グローバルな教育をすると優秀な若者は朝倉市から出て行ってしまつて帰つてこない。だから、成績が、言葉がちょっと悪いんですけども、あまりよくないほうがいい、優秀じゃないほうが朝倉市にとってはいいんだというような話を時々耳にいたします。

このグローバルとローカルというのは非常に両立が難しいと思うんですけども、ここのところの教育の実践というのはどのようにお考えでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、御質問がありましたローカルとグローバルという視点で考

えますと、学校教育というのは、そういった区別をした展開、学習活動というのは、実際は子どもたちには分からないように、当然、皆さん、公教育でございますので、平準化した授業、これを行うのが当然でございます。しかし、学習の深度等によって、もっと勉強したいお子さんには可能な限りの場であるとか、そういったものを提供しなきゃいけない。逆になかなか厳しいお子様に対しては、そういったフォローをしなきゃいけない。1つのやり方ではなくて、多種多様なやり方で学校の中を中心に学習をしていかなければならない。

今、御質問にありました優秀なお子さんは出ていくのが多いんじゃないかというお話がありますけども、やはりそういったところは、小学校、中学校、特に朝倉市は合計で17校ありますけども、小中連携をして、本当に一緒に頑張っていこうというので、小中はまともまっております。併せまして、高等学校でございます。それとも連携を、小中高の連携、特に中高の連携につきましては、そういった進路等もかかわってまいりますので連携をさせていただきます。さらに、これからも連携をさせていただければというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 小中高の連携ということで、校種間連携という言葉が出ましたけれども、私は、やっぱりそれはぜひともやっていただきたいというふうに思っております。

私は、先ほどのローカル、グローバルのことで言いますと、子どもどものときに朝倉市にいつばいい思い出がある若者は、将来、帰ってくる可能性が高いんじゃないかというふうに考えております。人間は、年を取れば、一時期、強烈なノスタルジーに襲われるといたしますか、そういったものではないかと思っております。これをシャケ戦略、シャケは生まれた川に帰ってくるというようなことで、おっしゃった職員の方がいらっしゃいましたけども、私は、子どもたちはシャケであってほしいと、大海に出てもいずれ朝倉市に帰ってきていただきたいというふうに思っております。

そういった中で、私は、ローカルな教育、これをするのが朝倉市に優秀になって人材がまた帰ってきてもらう、こういったものだというふうに思っております。私の考え方、教育長、どうでしょうか。ローカルの教育、要するに小中、朝倉市が受け持つ小中の部分を立派な教育、それから、ふるさとを愛する教育をすれば、私は若者は必ず帰ってくるんじゃないかと思っておりますが、私の考え、どのようにお考えますでしょうか。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、中島議員が申されました、やはり、小中学校の時代にふるさと教育をきちっとやれば、将来、また、朝倉に帰ってきてくれるんじゃないかというお考えだと思います。私もそのように考えておるところでございます。

実際、過去、中学校でございましたけども、教え子の子どもたちが、中学校時代を教えて、一旦、大学とか、就職は中央のほうとかに行つて、また帰ってきてこちらのほうで活

躍しているというお子さんもおられますし、そして、朝倉を盛り上げようと、そういったお子さんもおられます。そういった子どもたちが増えていただくと、本当にありがたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そしたら、今度はグローバルのほう、外に出て行って大きく成長して、将来に私は朝倉市に帰ってきていただきたいというふうに思っているんですが、小中高の校種間連携という言葉が教育長のほうから出ましたけど、私はこれは必要ではないかと思っております。やはり、高校も地元に通うような形が多いんじゃないかと、福岡のほうの私立のほうに行ったりするような生徒さんもあるかとは思いますが、大半の学生さんはこの地元で過ごす学生さんが多いと思います。

そういった中で、1つの出口戦略として、高校との連携というのは必要ですが、教育長はどのような連携をお考えでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） ただいまの御質問は、中高の連携の仕方ということでございますね。

中学校で私も校長をさせていただきまして、やはり、これは1つの例でございますが、地元の公立の高校の校長先生との交流も当然ございますし、私立の先生との交流も、公式には交流はございます。特に、地元の、こちらは学区がございますので、学区の県立の、公立の校長先生方とは交流をして、地元の子どもたちは地元で育てるというのは、公立の高校の校長先生方もそうあってほしいというように望んであります。

中学校のほうは、なかなか、それは選択の自由がございますので、あまり強くは申し上げられませんが、基本的には、そういった考えに近いというような考えを私は個人的には考えているところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そしたら、次の質問に移らせていただきたいと思っております。

そういった教育長のお考え、よく分かりました。私は、やはり組織というのは、トップの考えに大きく変わっていくというふうに思っておりますので、教育長という組織のトップとしての役回りというものもあると思うんですが、早野展生という個人の考え方というものも大きくこれからの朝倉市の教育行政に影響を及ぼすんじゃないかと思っております。こういった中で、教員長がどういったお考えがお持ちなのかというのは、ぜひとも議場の場で市民の方に知っていただきたいというふうに考えております。

そういった中で、教育長は3つの柱のことをおっしゃられました。「安心安全な学校について」、「学力向上について」、「教員の資質向上について」でございます。

では、安心安全な学校についてを、まず質問させていただきたいと思っております。

安心安全、いろいろな考え方があって、私も安心安全って何だろうということで昨日考

えておりまして、例えば災害とかから学校を守るとか、こういった考え方もありますし、いじめや暴力行為から子どもさんを守るといったものもあると思います。子どもが安心安全な環境で学び、様々な体験をして、充実した学校生活を送れるようにすることは、教育を行う上での大きな前提条件だというふうに考えております。

そういった中で、教育長が考える安心安全とは、こういったものを具体的に指すのかお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） くしくも、ただいまはやっぱり新型コロナウイルス、そして、豪雨、これは朝倉市にとっては、一番大変な、一番大事な内容だと思います。この2点についてお話をさせていただきたいと思っております。

誰もが不安を抱くことなく友達を作る、安心して夢や目標を描き勉強できる場所、学校はそんなところであってほしいと考えております。

令和2年の初めから、私たちは新型コロナウイルスの感染の広がりという未曾有の感染拡大を経験してまいりました。教育現場におきましても、これまでの経験値では十分対応しきれない状況となっているところでございます。第4波のただ中である状況で、保健衛生の徹底はどうするのかということを経験として責務を果たさなければならないと考えているところでございます。

もう1点は、様々な災害から学校を守ることとでございます。

本市は、平成29年に、御存じのとおり、激甚災害を経験し、尊い命も奪われました。その爪痕は、私たちの故郷のあちこちに今なお残っております。あのとき、学校は通常を取り戻すのに必死でありましたが、変わり果てたふるさとを前にして、なすすべもなかったことを覚えております。

朝倉市の将来を担う子どもたちを守るためにも、災害から学校を守らなければなりません。今日、多様化する災害の現実に対応するためにも、様々な災害対策を講じる必要があると考えております。

朝倉市が経験したことを受け継ぎながら、忘れることなく、教育現場での災害対策を生かしていけたらと考えているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、教育長のほうからコロナ禍のこと、それから、災害の対策ということ、2つが出たんですけども、では、一つ一つお尋ねしてきたいと思っております。

まずは災害のほうなんですけれども、災害が残念ながら起きてしまいまして、その中で復興していく朝倉市、その途上にあるわけなんですけれども、地域や関係機関と連携して学校内外における安全の確保やサポート体制の充実、そういったものが必要だというふうに思っております。

そういった中で、学校の施設整備の充実、それから、地域との連携、こういったものが

私は必要じゃないかというふうに思っておりますが、災害からの対策、これは具体的には教育長はどのようなことをお考えなのかお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 災害対策で、学校として特に施設であるとか、地域との連携をどう考えているかという御質問だと思っております。

1つは、施設に関しましては、当然、災害を受けたあとにいろんな箇所の修理等々を行っているところでございます。あとは、施設の備品等々も含めまして、保存食であるとか、そういったのを全小中学校で、全職員、生徒分を保存食としてキープをしていると。毎年、変えていくというような形もやっているところでございます。

あとは、連携でございますけども、当然、学校というのは地域の中にありますので、コミュニティの方々との連絡をいかに早く取るか、そういったコミュニティと学校との直通の連絡の取り方とか、そういったところは、今からもっと具体的に検討していかなきゃいけない。時間が大切だと思いますので、スムーズにできる体制を作っていければと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、次に、コロナ禍のことをお尋ねしたいと思います。

コロナの話が出ましたので、私はどうしても聞いておきたいことがございます。コロナで非常にみんな我慢をしているような、そういった生活が早1年強になっております。そういった中で、経済的に困難な環境にある子どもさんが多いんじゃないか、夢や希望を持って成長をしていくための支援が、私は必要ではないかというふうに思っております。

こういった経済的に困難な環境にある子どもに対しての支援、これは、私は学校が、まずは一番最初にやっていただきたいというふうに思っているんですが、こういったことについては、朝倉市の現状はどんなふうになっていますでしょうか。また、教育長はどのようにお考えでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 教育部長。

○教育部長（池田篤二君） 経済的な支援ということで御質問があっておりますけれども、それぞれ経済的に困難な家庭は就学支援という形でこれまでもやってきているところでございます。

特に、コロナ禍でということでの御質問であれば、特にコロナに対応したという事業はございませんが、今、考えておりますのが、例えば修学旅行とか、そういったところでの個別的な事業等に対しての支援等を考えておるところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） コロナによって学校に行けなかったりとか、それから、親御さんが経済的に困窮したりとか、それから、今までの教育が思うようにできないというような、非常に特殊な状況にありますけれども、これについて、すみません、部長からお話をいた

だきましたけども、教育長はどのようなお考えをお持ちなのかお尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、部長が申し上げた内容と同じでございます。

特に修学旅行のキャンセル料とか、そういったところが発生する場合が出てくるかもしれませんが、その辺も、今、申請をして準備をしているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、次に、教員の資質向上についてお尋ねしたいと思います。

教員の資質向上と言えば、必ず教員の皆様、試験を受けられるときに勉強される教育的な情熱、真剣さ、それから、2番目が教育的力量を身につける姿勢、3番目が総合的な人間力を高める姿勢と、この3つというのは必ず勉強されると思うんですけども、教育長が言っている教員の資質、これは具体的にはどういったものをお考えなのか、これをお尋ねいたします。文科省が言っているこの3つの資質のことを指しているのでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） そのとおりでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、そのとおりということでありましたらば、教育的な情熱、真剣さというのが、まず1番目に上がりますけども、具体的にどういったものを想定されているのか、具体例と言いますか、例えば、私が思うのは、非常に先生というのは忙しいですから、5分の休みのときとかも仕事に追われていらっしゃると思うけど、子どもが話しかけてきたらそれに忙しいというのを忘れて子どもさんの話を聞いてやるとか、そういったことを私は想像をするんですけども、教育長が言っている資質の向上とおっしゃられました、教育的な情熱、真剣さというのは、どういったものをお考えなのか、どういったふうに向上しようとしているのかお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、中島議員が言われましたように、そういった場合に、忙しいときでも子どもを第一に考えるということが出来る教員、これはどうしても情熱がなければなかなかそういった場も作れませんし、時間も作れません。ですから、子どもファーストで出来る教員、こういった教員は情熱があつて当然だと思っております。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、2番目の教育的力量を身につける姿勢というのが文科省の中では資質として求められております。朝倉市の教員の資質向上のために教育長はどのようなことをお考えでしょうか。これをお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 学力について、例えばお答えさせていただきますけども、申し



わけございません、ここ数年、いわゆる団塊の世代による大量退職というのが、御存じのとおり増えております。また、それに伴う大量採用というのが多ございます。若年教員の割合が高くなっております。

朝倉市においても、若年教員の育成というのが課題の1つになっております。今まで県や北筑後教育事務所主催の研修に今までは参加させたり、朝倉市の研修、さらには校内研修を充実させたりして、授業力、学級経営力などの基礎的、基本的な教師力をさらに育成していきたいというふうに考えているところでございます。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そうしましたら、最後に、総合的な人間力を高める姿勢というのが教員には求められていると思うんですが、これについては、教育長は具体的にはどういったことをお考えなのかお尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 3つ目の総合的な人間力、これは、やはり学力が、今は非常に学力向上というのが、一番、この十数年、表舞台に出ておりますけども、知・徳・体のバランス、この3つというのが私は非常に大事ではないかと思っておるところでございます。

学力を向上させることは、子どもたちの将来の選択肢の幅を広げるためにも大変重要な、いわゆる大事なことだと思います。併せて、豊かな心、そして、健やかな体、この3つのバランス、これが最も大切ではないかというふうに考えているところでございます。これが、しいては人間力を高めるというふうに該当するのではないかと考えております。以上です。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） では、最後に、学力の向上についてをお尋ねしたいというふうに思っております。

子どもが発達の段階に合わせて、先ほど教育長がおっしゃった知・徳・体、健やかな体、それから、豊かな心、質の高い学力をバランスよく育み伸ばしていくためには、子どもの学びの場である学校の役割は何よりも重要だというふうに考えます。

そういった中で、信頼される学校づくりなど、学校の教育力の向上を図るように取り組むことが、私は必要だというふうに考えております。

そういった中で、質の高い教育環境の充実というのが、私は必要ではないかというふうに思っているんですが、ちょっと脱線するんですけども、先生というのは、あまりにも忙しすぎて、子どもと向き合う時間がないのではないかというふうに私は心配しております。そういった先生がゆとりをもって子どもと向き合うためのフィールドというのを、教育委員会として準備をする必要がある、これがひいては子どもの学力につながるのではないかと思います。忙しすぎる先生につきまして、教育長はどのようなお考えをお持ちなのかお尋ねします。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、中島議員が言われましたのは、まさしく働き方改革にかかわってくる内容ではないかと考えております。

御存じのとおり、学校というのは非常に激務でございます。特に、若い先生方は、自分の仕事の順番をつけることが、まず第一の勉強ということで、それから学んでいるという状況でございます。特に大規模校の小中学校になりましたならば、どうしても会議の回数、または時間が多ございます。多くなれば共通理解というのは今までできませんでした。ですから、そういった会議をなるべく減らす、これはどこでもいっしょなんですけども、そういったのを、今、検討して、少しでも会議を減らす、そして、先生方もなるべく早く帰っていただく、そういったところを推奨は当然しているところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 一人一人に応じたきめ細やかな教育指導ができるような、そういった環境を私はぜひとも朝倉市は準備していただきたいというふうに思っております。

最後の質問になるんですが、学力の向上というのを教育長は挙げられましたけれども、これについて、議場のほうで3本柱の1つとおっしゃられましたが、これについては、どのようなことをやっていきたいというふうにお考えなのか、グローバルな人材を目指すのか、それとも、ローカルな人材を目指すのか、そういったお話も出ましたけれども、学力の向上、これについての教育長のお考えを再度お聞かせ願いたいと思います。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 子どもたちが学力を身につけ、向上していくことは、将来を豊かに生きていくために必要不可欠でございます。

施策基本事業評価において、中学校の国語、数学の平均値は、いずれも全国平均をわずかに下回っている状況でございます。知識や技能だけでなく、学び方を身につけさせ、学力を向上させることは、全学校にとって大切な課題だと思っております。

これまでも学力向上を目指し、学校は、チームティーチングとか、少人数の工夫、あるいは授業時間外の補充学習の充実などに詰めてきたところでございます。授業改善の在り方をいま一度見直し、今後、さらなる学力向上を目指していけたらと考えております。

今度、新学習指導要領に変わりまして、主体的、対話的で深い学びという言葉がキーワードになっております。子どもたちが自ら、自分から進んで友達とか先生と交流をし合いながら、自分の考えを深めたり、広げたりしていく、こういった主体的な学習、授業ではこういった主体的な学習を教育委員会がさらに研究をいたしまして、市内でも進めたいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、教育長のほうから主体的な学びという言葉が出ました。私は、

主体的な学びということ聞きまして、アクティブラーニングというのが頭によぎったんですけれども、主体的な学びというのは、教育長、アクティブラーニングを朝倉市の中で、そういった手法を、例えばグループでのディスカッションとか、そういったものをしていきたいというふうにお考えなんでしょうか。ちょっとすみません。最後と言ってもう1回質問をするのは申しわけないんですが、そのところをお尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 教育長。

○教育長（早野展生君） 今、アクティブラーニングという言葉が出まして、文科省の言っている主体的、対話的で深い学びとアクティブラーニングは完全なイコールではないというふうに文科省は申し上げております。

文科省の言っております主体的と申しますのは、やはり子どもたちが自ら意欲を持って学習に取り組めるような準備を教員のほうでそのお膳立てをいかにするか、知的好奇心を高めさせるための準備をいかにするか、そして、子どもたちがそれに踏襲できる、そういった授業の教員の準備、これが非常に大事だということは、教員自身は皆さん分かっているところがございます。以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） いろいろ教育長とやりとりをさせていただきまして、よく教育長のお考えというのが分かりました。バランスを大事にされて、非常に手堅く、そつなくやられる方なんだというのを印象として持ちましたので、組織はトップよりも大きくなれないというふうに言われております。ですから、ぜひとも朝倉市の教育行政を引っ張っていただきまして、有望な未来の朝倉市を担う人材を育てていただきたいと思っております。

教育行政についての質問を終わりたいと思っております。

では、次に、市職員による収賄事件の原因究明と再発防止策についてを質問をさせていただきます。

先ほど議長の前の席での登壇のときにもお話をさせていただきましたけれども、やはりPDCAサイクルというのは、私は必要じゃないかと思っております。計画を立てて実行をして、そこでチェックをする。これが私は議会の役割だと思っておりますので、この残念な収賄事件、これについて、防止策ということでプランニングがなされまして、今、実行されていると思っておりますけれども、これがきちっと行われているのか、これを議会の立場からチェックをさせていただきたいというふうに思っております。

まず、時間もあまりありませんのでお尋ねしたいと思います。

この事件が発生しました原因をどのように捉えているのか、これをお尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 今回の事件では、担当職員のほうが業務に精通していたこと、また、業務対応に長けていたことから信頼し、業務を任せきりになってしまって、その結

果、ほかの職員との情報の共有が不十分となりまして、管理監督のチェック体制が不十分であったことだと考えております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、部長のお話を聞きますと、その事件を起こした職員がモラルハザードを起こしてやったとか、そういった属人的なことではなく、チェック体制であったりとか、そういった組織としての原因というのもあるというふうに私は聞こえたんですけども、では、そういったのを認めた中で、私は、こういった対策というのを打ってあるというふうに思っているんですが、まず、情報の共有が不十分となって、チェック体制が不十分であったという言葉が部長のほうからもございましたけれども、これについては、具体的にはどうするという観点から、こういったことを朝倉市としてなさっているのか、情報の共有、それから、チェック体制、これについてお尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 答弁をお願いいたします。総務部長。

○総務部長（森山浩二君） すみません。検査等のチェック関係につきましては、入札契約は検査に特化した部署の設置の検討しておりまして、4月から福岡県とかに支援協力をいただきまして、組織体制の構築に向けた関係協議を開始しているところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 今、検査に特化した組織というのが出ましたけれども、これは1つの目玉施策ではないかというふうに思っていますが、これは具体的にはどういったものをイメージしたらいいのでしょうか。単純に検査部みたいなのがあって、ずっと四六時中検査ばかりやっているような、そういった部署ができるというふうに考えたほうがいいのでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 検査課の考え方ですけれども、契約とか、検査に特化した部署として考えておりまして、現在、問題点の整理等を関係課を交えて協議を進めているところです。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） ぜひとも、今、進行中ということですので、この部署ができますように、事件が発生しまして大分たっておりますのでよろしくお願ひしたいというふうに思っております。

次に、情報の共有が不十分だったということをおっしゃられましたけれども、これにつきましては、ローテーションを適当な期間で行っていくというようなことが書いてありますけれども、これは適切な人事異動ということで書いてありますが、このローテーションを行う期間というのは、大体どれくらいのイメージをしているのでしょうか。ある会社においては、1つの部署に5年以上留め置かないとか、そういったルールを設ける組織もあります。こういったローテーションについての考え方というのはどういったものなんでし

ようか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 異動の基準につきましては、現在、人事異動の適正化に向けて、他の自治体などを参考にしまして、人事異動対象基準の作成を検討しております。

平成22年3月に作成しました朝倉市人材育成基本方針では、人材育成を重視した人事異動の実行としまして、採用後10年など、一定期間は基礎習得能力の開発期間と位置づけまして、窓口部門、事業部門、管理部門をバランスよく経験させまして、職員の基本となる資質を高めるとともに、職員としての基礎能力の獲得や本人の適性を見出す期間としております。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 若いときはゼネラリストとして窓口とか、そういった市民と接するようなところに回して、そのあと、スペシャリストになるかどうかというのはちょっとわからないんですけども、そういったことを考えていらっしゃるということだと思います。

そういった中で、私が先ほど5年という数字を思い付きで申し上げたんですけども、朝倉市において、5年以上同じ部署にいらっしゃる職員というのは、突然の質問で申しわけないんですが、およそ何人ぐらいいらっしゃるのかお尋ねしたいと思います。

○議長（半田雄三君） 答えられますか。人事秘書課長。

○人事秘書課長（二宮正義君） すみません。昨年3月末の時点でございますけども、数字が、申しわけないんですが、約50人超だったかと思います。56人でありました。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 50人超ということですので、これが多いか少ないかというのはちょっと別といたしまして、きちっとローテーションというのはやっていったほうが組織の活性化という面でもいいかというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

次に、法令・規則の整備及び遵守の中で、公益通報制度の周知徹底をしていくということがございます。中でも、公益通報制度は平成21年に整備をしていたけれども、周知徹底が十分ではなかったというようなことが書かれておりますが、この周知徹底というのは、今般なされましたでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 公益通報制度のほうは機能していたのかということでございますけれども、事務または事業における法令違反に関する通報を適切に処理するとともに、当該通報を行った職員等の保護を図ることを目的とした公益通報制度を平成21年に整備しております。

近年、職員の周知徹底が十分でなかったために、浸透しているとは言えない状況ではございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） そしたら、周知徹底をするということを書いてあるんですけども、この周知徹底のほうはまだできていないということなんですか。再度お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 総務部長。

○総務部長（森山浩二君） 公益通報制度につきましては、運用などの見直しを図り、制度の周知の徹底を図ることで検討しているところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 平成21年から公益通報制度というのができたということでしたが、実施例と言いますか、通報のあった実例というのは何件ぐらい、平成21年からあるんでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（半田雄三君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（二宮正義君） 現在まで1件も提出はございません。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 1件も提出がないということは使い勝手が悪いのか、それとも、そもそも職員の方が期待をしていないのか。10年間で1回もないというのは、正直なところ少ないという印象なんですけれども、この点については、担当課としてはどのようにお考えでしょうか。お尋ねします。

○議長（半田雄三君） 人事秘書課長。

○人事秘書課長（二宮正義君） 内部通報でございますので、実際に、本当に知っていたけど報告をしなかったのかということは実際にありませんでしたので、その真実は分かりませんが、今、検討している中身としましては、直接、今、弁護士さんのほうに郵送なり、提出をいただくものなんですが、内部通報としましては、まずは上司に相談したりですとか、人事担当課のほうに相談して、それでも改善が図られない場合ですとか、取り上げてもらえない場合に、弁護士に行くというのが、やはり通常ではないかとも考えておりますので、そういった運用の改善を、小さなことから上がってくるような運用の改善を、現在、考えておるところでございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） よく制度なんかでも、制度としてはあるんだけど、申し込みが1件もないとか、そういった制度というのが行政には往々にしてありがちなんですけども、私も確かに想像すれば、弁護士さんのほうに実名で通報するというのは非常に勇気があって、ハードルの高いことだというふうには思っているんですけども、ただ、制度がうまく機能するためには、少しハードルを下げたほうが使い勝手のいい制度になって、有効的なツールになるんじゃないかと思っておりますので、ぜひとも御検討をお願いしたいと思います。

ちょっと時間も少なくなってきましたので、今、幾つか質問をさせていただいたんですけど、あまり対策が進んでいないというのが正直な印象を持ったんですけれども、副市長、この対策につきまして、副市長は責任者であると思いますが、運用の面を含めまして、どのようにお考えなのかお尋ねしたいと思います。私は、こういった事件というのは二度と起きてはいけないというふうに考えておりますので、その点についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○議長（半田雄三君） 副市長。

○副市長（右田博也君） 今回の報告書、1月の下旬に公表をさせていただきまして、それから、様々な再発防止策ということで挙げさせていただいておりますので、各担当の部署にその内容について検討をして、スピーディーに具体的な対策を打ち出すようにという指示を既にしております。

ただし、内容としましては、人事異動等、かなり深い内容と、今後の朝倉市の方向性に非常に大切な内容でもあることですから、慎重に検討をさせていただいているところでございます。

以上でございます。

○議長（半田雄三君） 10番中島議員。

○10番（中島秀樹君） 非常に日常業務が忙しい中、これをやっていくというのは大変なことだというふうに私も分かっております。しかし、こういった残念な事件が二度と起こらないために、この再発防止策というのは、より具体化していただきたいというふうに思っております。

この事件が起きたときに、職員の皆さんは、朝倉市は変わらないといけないと、朝倉市役所は変わらないといけないというふうに思ったはずですが、私も強く思いました。でも、人間、やはり易きに流れてしましまして、忙しさに取り紛れて、そういった情熱というのは、どんどん薄れていくというふうに思っております。

この計画ができて、既に半年がたとうとしているんですが、やはり、鉄は熱いうちに打て、朝倉市役所、変わろうやって思っているうちにやっていかないと、本当に絵に描いた餅、仏作って魂入れずになってしまいますので、ぜひともこれはやり遂げていただいて、二度とこういった残念な事件が起きないようにしていただきたいと思います。以上で私の質問を終わります。

○議長（半田雄三君） 10番中島秀樹議員の質問は終わりました。

以上で、通告による一般質問は終わりました。これにて一般質問を終了いたします。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午前11時47分休憩